

さてお立ち会い、『マゴマゴ新聞 市井版』のメインキャラクター、のら猫「クロッチ」に自己紹介をしてもらおうことにいたしました。うう。いったいコヤツは何者なのか、ついにその秘密が解き明かされる——かもしれませぬ。

# のら猫 クロッチ

作  
かりにゃん

のら猫が生きる世界は奇酷だけれど  
愛と情けと感動でいっぱい！

目つきがワルくて、がらがワルくて、ケンカっ早い！

クロッチは、東京のとある住宅街を根城にする、界隈ではちよいと名の通ったのら猫でございます。

ダントツの目ヂカラと大胆不敵な面構え、狙った獲物は百発百中のクロッチ。人間にとっては抜け目のないドロボウ猫ですが、実は子猫や年老いた猫たちの面倒見がいい、心やさしい猫なのでございます。

ケンカっ早くて無鉄砲、負けず嫌いで見栄っ張り、単純でオッチョコチョイ、気風がよくて義理堅い。と、こんな具合に、クロッチは生粋の江戸猫氣質！ 江戸猫の矜持と心意気をもって毎日を精一杯生きているのでございます。

さて、クロッチは見た目とはうらはらに恥ずかしがりやで、自分のことになると不器用で、損ばかりしております。砂場がないので、スーパーのコンクリートの駐車場の窪みをちよいと拝借して用をすませますが、見つかるたびに店員さんに怒鳴られる始末。まわりで生まれる子猫たちが里親さんにもらわれていく中で、人に慣れることができないクロッチはいつまでもドロボウのら猫として、アスファルトの上で生きていくしかないのです。

まわりに残されたわずかな自然を慈しみつつ、自由に気ままに生きるクロッチですが、のら猫が都会で生き抜くのは至難のわざ、命の危険と隣り合わせの毎日でございます。

そんなクロッチの夢は、おいしい魚をゆつくり、たらふく食べること。そして、木陰の落ち葉の上でひっそりと眠ること。☑。

さあ、みなさまお待ちかね、クロッチを取り巻く、のら猫、飼猫、カラス、カエル、ギンバエなど小さな生き物たちの、おかしくも情けあふれる物語のはじまりでございます。

(つづく)

